

岡山県新庄村議会

(事績2) 住民に開かれた議会

● 議会発「村づくり自分ごと化会議」の開催

人口約900人、1000メートル級の美しい連山に囲まれた新庄村は、明治5年の村政施行以来一度も合併せず、「村民一家族」として自主自立の村を築いてきた。近年では人口減少や高齢化が進むなか、歴史・文化・自然を後世に継承し持続可能な村とするため、議会の果たすべき役割が益々重要になっている。

村民の代弁者たる議会は、自らの改革の一環として平成29年11月に村民へのアンケートを行うが、議会と村民の距離を実感することとなる。強い危機感を覚えた議長のリーダーシップのもと、議員全員で村民との対話や説明責任を模索するなか住民協議会にたどり着く。行政が行う意見交換会は、世帯主たる高齢男性の出席が固定化し、必ずしも多様な意見が届いているとは言い難く、一方、議会も村民の声を把握し切れていない問題意識があった。村民が村の課題を自分ごととして捉え自由な討議を目指す、題して議会発「村づくり自分ごと化会議」である。

「自分ごと化会議」は、東京の一般社団法人構想日本のコーディネートにより全国の自治体で行われてきたが、新庄村ほど小規模自治体の例はなく、また議会主催は初の試みとなった。テーマは「老朽化した役場庁舎」、喫緊の課題であり今後の村づくりの核となる重要課題であった。構想日本の協力のもと議会と村民の新たな挑戦がスタートした。

幅広い層との対話を目指し、無作為に抽出した18歳以上120人に案内を送付したところ、女性や若者を含む各年代から17人の参加を得た。応募率は14.2%と高い関心を示した。

平成30年11月から4回にわたった会議では、論点となる「現在地に建替え」「他の場所に建替え」「現庁舎の大規模改修」に加え、村のメインストリート（がいせん桜通り）の既存施設・空き家を活用し「役場機能を分散化」する画期的な

アイデアも出された。

令和元年7月には村内既存施設活用の検討、役場職員の業務見直しなど4項目を取りまとめ議会に提案、バトンを受け取った議会も議論を重ね、同年12月には自分ごと化会議の報告会を兼ね議会提案書を村長に提出、村長も直ちに検討委員会を設置し、庁舎建て替えの必要性や方法など検討を重ね計画は進行中である。

会議途中の平成31年4月には議員選挙が行われ議員の入れ替わりもあったが、新たな議員を加えた議会は、構想日本のコーディネートと初の試みに手を上げた村民とともに走り切り、住民に開かれた議会を実践することができた。また議員の意識改革と村民の熱意はこの会議の大きな成果であった。

今後も小さな村ならではの強みを活かし、空き家対策など様々な課題を村民とともに考え、「村民に必要とされる議会、村民に身近な議会、村民の声を反映できる議会」を目指していく。